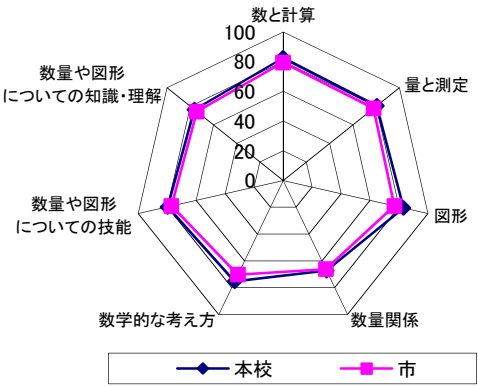


宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	82.5	79.4
	量と測定	80.6	77.9
	図形	83.1	76.8
	数量関係	67.4	66.2
観点別	数学的な考え方	75.3	70.2
	数量や図形についての技能	79.8	77.1
	数量や図形についての知識・理解	76.4	74.4



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は市の平均を3.1%上回っているが、計算問題では、整数のわり算の3けた÷2けたの正答率が特に低かった。がい数の問題では、上から2けたのがい数の表し方の正答率が低かった。	○3けた÷2けたのわり算の筆算については、10をもとに商の見当をつけるという考え方を指導しながら、計算ドリルで反復練習をさせて習熟を図る。概数の表し方では苦手な児童を中心に、T・Tによる指導で習熟を図る。
量と測定	○平均正答率は市の平均を2.7%上回っているが、分度器に示された角の大きさを測る問題の正答率が低かった。	○角の問題では、分度器で測る前に見当をつける訓練をし、およその大きさをつかませる。
図形	○平均正答率は市の平均を6.3%上回っている。円と球、三角形の意味や性質をよく理解していた。	○円と球、三角形の性質を使ってできる問題を用意して、理解を深めていく。
数量関係	○平均正答率は市の平均を1.2%上回っている。しかし、折れ線グラフから、変化の特徴や傾向を読み取る問題はよくできていたが、2つの折れ線グラフの有用性を記述する問題の正答率は低かった。分配法則の問題でも、宇都宮市を上回っているものの、正答率が低かった。	○折れ線グラフでは、いろいろな2つの折れ線グラフを用意し、折れ線グラフの特徴を読み取れるようにしていく。分配法則では、計算のきまりを思い出させながらドリル学習を繰り返し、定着を図る。